

科目名		建築設計演習 II			
担当教員		星野 麻子		実務授業の有無	有
対象学科		建築デザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	単位数	1	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		1年次に学んだ住宅計画演習・製図・プレゼン技法Ⅰ・建築デザイン実習Ⅰ・建築設計演習Ⅰでの知識を活かして、オリジナルの空間を設計します。実際に参加する競技設計を念頭に置いた課題に対して、自分の思い描く空間をカタチにし、それを他人に伝える為の技術を学びます。課題は期限付きで提示しますので、前期では『期限に間に合わせる』を重点的に評価します。			
学習目標 (到達目標)		これまで培ってきた知識と技術を活かし、課題に対する発想力、オリジナルの建物・空間の提案力、他人に伝える為のプレゼンテーション力を習得する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計 (学芸出版)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	『建築コンペ』の為の技術の習得 ・スケッチアップの習得			コンペ作品の表現方法の一つとして、スケッチアップを習得する。手掛けた作品の表現方法を、より多くの中から選択できるように準備をする。	
2	『建築コンペ』を理解する ・具体的な課題を提案する為のプロセスの確認 ・課題を分析しコンセプトを検討			まずはコンペのプロセスを確認し、内容とボリューム・流れを確認する。その後、出題された課題に対して、教科書やインターネットを利用して情報を収集する。	
3	課題を分析する ・課題を分析して出題の意図と趣旨の解釈			課題を分析し出題の趣旨を理解する為、教科書やインターネットを使い、課題の背景にある問題を理解し、出題の意図を探る。	
4	方向性を検討して設定する ・条件を整理して計画の方向性を設定			条件を整理して計画内容を決定する為に、設計条件をしっかりと理解し、内容を把握して、設計の方向性を明確にする。	
5	コンセプトを作成する ・方向性の確認とコンセプト・サブタイトルの設定 ・コンセプトと設計方針の発表			計画に対するコンセプトの重要性を認識した後、決定した方向性から、コンセプトを確定させる。更に、コンセプトを明快にするためサブタイトルを付ける。	
6	エスキースを作成する(課題1：提出) ・イメージを形にする ・ひらめきを記録する(思い付きのスケッチ)			確定したコンセプトをもとにエスキースを作成する。思い描くものを形にすることに対しては工夫が必要なので、まずは思い付いたものをスケッチしてみる。	
7	コンテンツを作成する ・エスキースを基に図面やパースの作成			エスキースから各種図面やパースを作成する。ここでは、何を伝えるためのコンテンツなのかを明確にしておく。コンセプトに沿ったコンテンツを作成することが大切である。	
8	プレゼンボードを作成する(課題2：提出) ・タイトル・コンセプト・コンテンツ等をレイアウトする			作成したコンテンツをレイアウトし、プレゼンボードを作成する。全体の雰囲気や文字の効果などにも配慮して、見やすさ、分かりやすさを意識したレイアウトを心掛ける。	
9	プレゼンテーション(課題3：提出・実施) ・プレゼンテーションを行うための資料作成 ・プレゼンテーション実施			プレゼンテーションを行う為に、プレゼン資料を作成し、実際の発表を想定してプレゼンテーションの構成を決める。他人を惹きつける魅力のあるプレゼンテーションを行う。	
10				※コンペ課題を検討した後で一旦スケッチアップを学びますが、それ以後は卒業制作と流れは同じです。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題1	課題2	課題3	取組姿勢	後期に実施される卒業制作に向けて、競技設計の流れと内容をしっかりと把握しましょう。自分は何にどれほどの時間を要するのか、知識や技術はどれほど習得できているのかなど、しっかりと把握して進めましょう。進め方には個人差があります。『自分』をしっかりと認識する必要があります。また、仕事において提出期限は必須です。完成物を提出出来ているか、厳しく評価します。	
20 %	20 %	40 %	20 %		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		住宅設計に11年間従事			